

簡易版 TP（ティーチング・ポートフォリオ）

氏名	井上貴史
所属機関名	獣医学部 獣医学科
職位	教授
在籍年	2 年

教育の責任

獣医学部に所属し、主に専門科目である医動物学の教育（獣医学科「医動物学」、獣医保健看護学科「動物感染症学 C」）と卒業論文指導に従事している。また、「動物関連キャリア概論」や準正課教育科目の「野生鳥獣リスクマネジメント学」なども担当している。

教育の理念

動物と人の健康に貢献するため、さまざまな獣医事の現場のニーズに応え、自ら考え行動できる人材を育成したい。そのため、学生が専門的な知識や技術を習得するだけでなく、学習の過程を通じて、「考え方」、「調べ方」、「課題解決の方法」、を身につけることが重要と考える。また、獣医事の現場は、自然の多様さや社会の複雑さに満ちており、理不尽とも思える事象に直面することも少なくない。卒業後にそうした状況に柔軟に対応できるよう、大学での学びを通じてその一端を経験させたい。

教育の方法・方針

医動物学（寄生虫学・衛生動物）では、獣医学上重要な病原性寄生虫と病原体媒介動物を取り上げ、その生態・病原性・防除方法を学ぶ。医動物学が扱う生物、特に寄生虫はその宿主を含めて多種にわたり、特異な形態や複雑な生活環をもつことから、その学習が暗記偏重型になりやすく、「難解でマニアックな科目」として敬遠されることがあると感じる。一方で、寄生虫の独特の形態は学生の好奇心を刺激するものでもあり、多種多様な寄生現象は生命の不思議を直感的に理解する機会を提供する。

そのため、医動物学の授業では、生きた寄生虫の動画や身近に棲息する寄生虫の例を取り上げ、学生が「知りたい」と思えるような講義を念頭におく。また、学習面では、表面的な寄生虫名や用語の暗記に終始しないよう、論述式の課題や記述式の試験を採用して学生の知識の定着を促す。知識の習得とともに、寄生虫というこれまで未知であった生物種について、考え、調べ、理解することで課題解決力を養い、自然の多様性を理解する一助とする。

教育の成果

2025 年度の授業アンケートにおいて、獣医学科「医動物学」では 67/76 名 (88%)、獣医保健看護学科「動物感染症学 C」では 48/48 名 (100%) が、「満足」または「ほぼ満足」と評価した。これまでは両講義を同内容とし、半期の 2 コマ連続で実施していたが、2024 年度の講義では学生の学習到達度が低いことを実感した。そのため、2025 年度は、両講義を独立させ、通期で 1 コマずつ実施し、中間と期末の 2 回の試験を導入した。その結果、アンケート評価結果からも学生の学習到達度の改善がうかがえたと考えている。

今後の目標

着任 2 年目であるが、講義を重ねるたびに「知らないものは教えられない」ということを実感している。寄生虫をみること、寄生虫症の問題を知ること、の経験を絶えず蓄積して、自身の言葉で、寄生虫の面白さや寄生虫症の重要性を熱を持って伝えられるよう尽力したい。

根拠資料

2025 年度授業アンケート